

宮崎市総合発達支援センター

【診療部】

重点目標・施策に対する実績

ア【事務のICT化】

- (ア) 電子カルテ、リハビリシステム、診療報酬のオンライン請求の導入に向け、文書様式や業務フローの見直しやオペレーションの構築に取り組み、12月に稼働しました。
- (イ) 医療情報セキュリティや個人情報保護について指針を定め、管理者や担当者の体制を整備しました。

イ【関係機関との連携強化と各種ニーズに応じた事業の推進】

- (ア) 宮崎市保健所のすこやかひろば担当職員との運営会議、健診検討会への参加、公認心理師、理学療法士による学校支援、作業療法士や公認心理師を支援者向け講演会に講師として派遣するなど、地域との連携強化を図りました。また、児童養護施設の職員と情報交換を行いました。
- (イ) 受診待機のある家庭に対し、公認心理師、言語聴覚士、子育て相談員等で相談支援を行い、適切な時期に適切な支援が受けられるよう支援しました。

ウ【地域への情報発信】

- (ア) 「OTだより」をホームページに掲載し、ご家族等に役立つ情報発信を行いました。
- (イ) 重症心身障がい児者の支援に直接関わっている地域の関係機関等を対象に「おおぞらセミナー」をZoomで行いました。

○相談・調整業務

a 来所・電話等内訳

(年間累計件数)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
来所	353	387	374
電話	762	632	583
その他	0	0	0
合計	1,115	1,019	957

b 内容内訳

(年間累計件数)

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
診 療 予 約	347	353	362
初 診 時 面 接	302	312	326
医 療 ・ 福 祉 支 援 等	235	177	118
他 機 関 ・ 施 設	118	93	88
学 校 生 活	34	32	18
家 庭 生 活	23	22	14
地 域 生 活 支 援	55	31	31
そ の 他	1	0	0
合 計	1,115	1,019	957

c 経路内訳

(年間累計件数)

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
医 療 機 関	150	169	131
保 健 所	324	261	293
児 童 相 談 所	7	3	3
学 校 (教 育 機 関 含 む)	77	37	36
保 育 所 ・ 幼 稚 園 等	92	62	109
福 祉 施 設	84	116	94
テ レ ビ ・ 新 聞 イ ン タ ー ネ ッ ト 等	78	105	76
知 人 ・ 親 の 会	18	17	24
利 用 者	269	246	182
そ の 他	16	3	9
合 計	1,115	1,019	957

担当業務別の重点施策の実施状況

【 外来 】

ア【特殊外来における課題解決】

「精神科」・・・診察時間の調整等を行い必要な診察枠を確保しました。

「整形外科」・・・予約枠の調整や職員間の連携により、待機期間の短縮や診察時間の効率化を図りました。

「耳鼻咽喉科」・・・新型コロナウイルス感染症の影響で受診を控えていた障害者施設の方の診察・処置を行いました。

「眼科」・・・視能訓練欄に記載。

イ【診療録と請求事務の効率化】

電子カルテを12月より導入し、診療録は電子データに移行しました。また、マイナンバー保険証資格確認から請求事務までオンライン処理が可能になりました。

ウ【新たな療法への取り組み】

新たな親子支援(PCIT: Parent Child Interaction Therapy 親子相互交流療法)を開始しました。

(年間累計人数)

項 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
発 達 外 来	初 診	298	307	319
	再 診	10,831	10,353	10,642
整 形 外 科	初 診	0	0	0
	再 診	264	264	254
精 神 科	初 診	0	0	0
	再 診	158	122	106
耳鼻咽喉科	初 診	3	0	15
	再 診	58	16	33
耳鼻咽喉科 (難 聴)	初 診	18	28	59
	再 診	243	188	195
眼 科	初 診	1	2	0
	再 診	330	312	272
合 計	初 診	320	337	393
	再 診	11,884	11,255	11,502
合 計		12,204	11,592	11,895

【視能訓練】

ア【眼科患者の整理】

(ア) 定期的な診察終了もしくは他医療機関への紹介を行いました。

(イ) 定期的な検査・訓練を必要としたケースが少なく、待機期間が1~2か月に短縮しました。

イ【検査技術、知識の向上】

- (ア) オンラインで学会に参加し、小児眼科、神経眼科に関する知識を深めました。
- (イ) 他医療機関で検査困難なケース1名の紹介があり、検査、視能訓練へ繋ぐことができました。

ウ【他の機関と連携強化】

- (ア) 宮崎大学医学部付属病院と併行で通院している方の情報提供を行い、連携を図りました。
- (イ) 宮崎市保健所の3歳6か月児健診に、視能訓練士を派遣しました。
- (ウ) 宮崎市における3歳6か月児健診の視覚検査の紹介を日本視能訓練士協会のホームページにて行いました。
- (エ) 他医療機関へ診療情報提供書を記載する際、特性や検査方法、対応の工夫を記載し、発達障がいの啓発に努めました。

(年間累計人数)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
評価	76	63	54
訓練	505	487	468
合計	581	550	522

【理学療法】

ア【職員の資質と支援技術の向上】

- (ア) 宮崎県理学療法士会と協働し、研修会や連携会議を行い、専門職間での連携強化を図りました。
- (イ) 施設外研修への参加や、各自で取得した認定資格の更新など自己研鑽に努め、支援技術の向上を図りました。

イ【支援センター内および関係機関との連携】

- (ア) 児童発達支援センターすびか及び生活介護事業所宙での姿勢運動支援の充実のため、補装具の調整や訓練備品の貸与を行いました。また、支援職員を対象に「重症心身障がい者に対する姿勢管理」をテーマに研修を行いました。
- (イ) 地域生活支援部の要請に応じて施設支援、訪問指導に取り組みました。
- (ウ) 地域生活支援部の要請を受け、住宅改修に関する相談支援を行いました。
- (エ) 保健、医療、福祉、教育機関と連携し、地域支援の充実を図りました。

(年間累計人数)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
評価	28	44	66
訓練	2,552	2,595	2,555
合計	2,580	2,639	2,621

【作業療法】

ア【ニーズに応じた作業療法支援体制の構築】

- (ア) ニーズに対応した支援を計画し、目的別生活支援を行いました。訓練室を1室追加し、作業療法支援は、年間延人数が108.5%増となりました。
- (イ) グループ支援や外部での支援について、綿密な打ち合わせや調整を作業療法士職員間で行うと共に、支援に関するノウハウ共有を行いました。

イ【支援センター内および地域の関係機関との連携強化】

- (ア) すぴか及び宙利用者に対し、各部門での支援に加え、作業療法室を使用した活動を両部署職員と共に行い、利用者への支援と職員間の情報伝達を行いました。また、宙利用者に対し、多職種で検討を重ね「ポジショニングシート」の作成に結びました。
- (イ) 4か所の公立保育所で「遊びの研修」を行い保育士との連携強化に努めました。
- (ウ) 母子保健事業である、すこやかひろばで専門的指導を、また、跡江保育所での親子通園で保護者勉強会を行いました。
- (エ) 中央西地域及び清武地域ケア会議にて、管内の教育・保育施設職員に向けて講話を行いました。

ウ【作業療法ノウハウの対外的な情報発信】

ホームページに、家庭でも実践できる情報を掲載したコラム「OTだより」を掲載しました。

(年間累計人数)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
評価	174	170	202
訓練	1,753	1,641	1,762
合計	1,927	1,811	1,964

【言語聴覚療法】

ア【受診前の家族に対する新たな相談支援の検討】

- (ア) 言語面（吃音など）を主訴とする初診前の相談支援を行いました。
- (イ) 各スタッフが相談支援の資質向上のため、学会・研修会へ参加しました。また、部署内での研修会を定期的に行いました。

イ【関係機関との連携強化と各種ニーズに応じた事業の推進】

- (ア) 相談機関「聴こえとことばの相談」ひだまり（宮崎県身体障害者支援センター 内）、宮日母子福祉事業団ことばの教室、放課後等デイサービスなどに所属する言語聴覚士との情報交換会を開催し、各施設の状況や支援内容について情報共有や意見交換の機会を設け、関係機関の連携強化を図りました。
- (イ) 学童期の児童に対して必要時に支援できる体制の充実を図るため、新規評価を行いました。また、対象疾患を拡充し、摂食嚥下障害児や口腔機能障害児への評価・訓練を新たに行いました。摂食嚥下機能評価・助言指導の際は、特別支援学校担当教員との情報共有・連携に努めました。
- (ウ) 母子保健事業（ちびっこランド、すこやかひろば）へ職員を派遣し、おおぞらホームページに掲載している情報を保護者向け説明資料として活用し、保護者や保健師への周知に努めました。

- (エ) 難聴児への支援に関しては、保護者から相談があった難聴児を受け入れ、初診前の相談を行いました。宮崎大学医学部附属病院難聴支援センターとの情報交換会やさくら聴覚支援学校主催の公開講座等へ参加し、関係機関との連携強化を図りました。
- (オ) 口蓋裂児とその保護者へのグループ支援を行い、就学に向けた教育サービスの情報提供や家族同士の交流の場を設けました。
- (カ) 生活介護事業所宙の支援職員に対する食事介助技術の指導や利用者の食形態への現状確認・整理を行いました。

(年間累計人数)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
評価	165	153	176
訓練	1,907	1,583	1,567
合計	2,072	1,736	1,743

【心理療法】

ア【受診前の相談支援の拡充】

初診待機中の相談支援として「受診前の家族面談」を外来スタッフや地域生活支援部と連携しながら行いました。(宮崎市発達障がい児等早期相談強化支援事業)

イ【センター内外の機関との連携を強化する】

- (ア) 宮崎市と連携し、宮崎市保健所でのすこやかひろばへ職員を派遣し、専門的な助言を行いました。また、新しく母子保健担当になった保健師を対象に、センター見学時に発達支援に係わる講義を行いました。
- (イ) 母子保健研修会と母子地域ケア会議で、発達支援に関する講義を行いました。
- (ウ) 宮崎県立看護大学の大学院生を対象に、地域の母子ケアシステムに関する講義を行いました。
- (エ) 幼児期の間接支援として、公立保育所の保育士を対象に発達に関する講義を行いました。
- (オ) 教育機関との連携として、宮崎市就学相談委員会への出席や就学相談委員を対象とした講義、高校でのケース会議に参加しました。
- (カ) 教育機関への間接支援として、上級特別支援教育コーディネーター養成研修と学校支援アドバイザー派遣事業への講師派遣を行いました。
- (キ) 児童発達支援センターすびか職員と児童のカンファレンスを行いました。

ウ【職員の資質向上と心理支援体制の強化】

- (ク) 心理職研修会へ参加し、支援スキルの向上と近接領域の心理士との連携を図りました。
- (ケ) 利用者の細かなニーズに応じることを目的に、保護者向けの勉強会「テーマ別講座(就労、受け身タイプの子育て、感情との付き合い方)」を行いました。

(年間累計人数)

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
評 価	1,306	1,325	1,196
訓 練	1,015 (125)	1,142 (174)	1,283 (221)
合 計	2,321	2,467	2,479

※内数は初期療育（いるかグループ）及び集団療育（くじらグループ）の実績人数

【 障がい児通所部 】

【児童発達支援センター すびか】

重点目標・施策に対する実績

ア【家庭と連携した療育体制づくり】

- (ア) 個別指導計画とその見直し（6か月ごと）について、職員間で密に協議し、実態に即した計画作成を行いました。また、年3回の支援計画についての個別面談、必要に応じて保護者相談を行いました。
- (イ) 親子保育（毎週金曜日）及び各種行事を通じて、保護者との情報共有や学習の場を設けました。
- (ウ) 保護者学習会においては、5月「就学ガイダンス」、6月以降「支援学校見学会、地域小学校支援級見学会」、7月「卒園児保護者の話を聞く会（父母の会主催）」を行いました。
- (エ) DX環境整備推進を図り、3月より電子連絡帳を導入し、保護者とのよりスムーズな連絡体制の整備を行いました。
- (オ) 児童発達支援事業所評価保護者アンケートを行い、「支援満足度」については以下のような結果となりました。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業所の支援満足度	91%	96%	100%

- (カ) 親子で参加した年間行事を以下のとおり行いました。

月	行事名	内 容	人 数
5	春の親子遠足	親子保育（フェニックス自然動物園）	99
7	七夕	七夕の行事	70
	夏祭り	親子保育、兄弟児支援 夏ならではのあそび場所の提供	130
10	うんどう会	かけっこやリズムなどを発表。 （宮崎市立櫛北小学校体育館）	210
12	おたのしみ会	見ること、聞くことを中心に子ども、保護者参加型で楽しめる会。	98
	もちつき	もちつき体験 ※もちをつく、さわることの体験	95
3	お別れ遠足	親子遠足（フローランテ宮崎）	112
	卒園式	卒園児：17人	114

イ【診療部や教育機関と連携した療育】

- (ア) 診療部職員が定期的に保育や食事場面に参加し、支援方法（発達支援・家庭支援）について、協議・連携を行いました。
- (イ) 作業療法士と連携し、作業療法訓練室での活動を行いました。
- (ウ) 関係機関との連携として、宮崎県立明星視覚支援学校との定期的な情報共有、就学を迎える児童を対象に支援学校等への引継ぎを行いました。

ウ【安全・危機管理に関すること】

- (ア) 遊具や保育環境の点検を毎月行い、危険個所の修繕を行いました。
- (イ) 毎月、ヒヤリハット・事故報告書を作成し、事故の発生要因の分析と職員間での情報共有を行いました。軽微な事故も報告対象とし、重大事故の発生予防に努めました。
- (ウ) 支援センター内の各部門とで構成する防災委員会において備蓄品の見直しなど災害時マニュアルの改訂を行いました。
- (エ) 月1回、緊急時想定訓練を行いました。(地震、津波、火災想定、アレルギー、バス訓練【発作、園外保育時の被災想定】、不審者対応など)
- (オ) バス送迎時の安全管理の徹底や、送迎バス車内に置き去り防止安全装置取付など、安全管理体制の整備を行いました。
- (カ) 3月に外部講師によるリスクマネジメント研修を行い、全職員にて園児の安全な環境作りのための意識向上を図りました。

エ【地域資源（場所・他施設）との関係促進】

- (ア) 園外保育で公共施設等を利用する機会を設けました。
- (イ) 行事（夏祭り等）に関連して、障がい福祉サービス事業所に物品の依頼をしたり、児童のトマトの収穫体験に協力いただくなど地域の福祉施設と連携した事業の実施に努めました。
- (ウ) 公立保育所と連携して、交流保育を行いました。また、近隣児童館での活動体験を行いました。

オ【職員のスキルアップに関すること】

- (ア) 内部研修として、発達、医療、食事、障がいの理解などについて学習会や研修報告会を行いました。
- (イ) 12月に障がい者虐待防止・権利擁護について職員研修を行いました。

【研修、実習の受入れに関すること】

- (ア) おおぞらセミナーを開催し、児童発達支援事業所や支援学校等に対して障がいを持つ子どもの理解に関する研修を行いました。
- (イ) 年間を通して実習生の受け入れを行いました。宮崎県主催の障がい児保育体験研修や宮崎市公立保育所医療的ケア保育体験研修の受入れを行いました。

○ グループ編成 [令和6年3月 (卒園及び転園前の在籍児数)] (単位：人)

クラス名	人数	職員体制
た い よ う	9	6
に じ	9	6
ぎ ん が	9	6
ほ し	7	5
か ぜ	6	5
合 計	40	28

【 障がい者通所部 】

【指定生活介護事業 宙(そら)】

重点目標・施策に対する実績

ア【利用者の生活の質の向上】

- (ア) アセスメントや保護者対象の個別面談等(Zoom面談希望者含む)を行い、個々の利用者ニーズを把握し、よりよい生活支援の場を提供できるよう努めました。
- (イ) 保護者参加型の行事(さつき会、お楽しみ会等)は、感染症対策を行いながら、保護者の参加を募り、利用者とともに楽しんでいただく機会を設けました。
- (ウ) 生活の中に楽しみが持てるよう、季節を通じた様々な日中活動を提供し、カレー大会や縁日では、活動の中に“口から食べることの楽しみ”を取り入れ、看護師と連携して利用者の安全管理を徹底しながら、綿あめ体験等を実施しました。
- (エ) オカリナコンサートとしてボランティアを受け入れ、オカリナの生演奏を鑑賞し、本格的なオカリナの音色に触れる機会を設けました。

イ【職員の専門性向上の充実】

- (ア) 重度の障がい者への支援に対応できるよう、職員指導や職場内研修を毎月行い、職員の意識向上や資質向上を図りました。また、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防に関する職場内研修を行い、感染防止対策に取り組みました。
- (イ) 診療部の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士から支援に関する指導や助言を受け、職員の技術向上を図りながら統一したケアを行いました。

ウ【医療的ケアの充実】

- (ア) 利用者の健康状態を常に把握し、利用者に応じた適切な処置や医療的ケアを行い、健康管理に努めました。
- (イ) 新型コロナウイルスやインフルエンザ感染症拡大防止のため、利用者及び職員の体調管理(体温、必要時は抗原検査の実施)、室内換気及び消毒の徹底に努めました。また、看護師による感染対策の勉強会を行いました。

エ【適正な運営】

虐待防止、身体拘束の適正化、BCP、感染症予防・蔓延防止対策の各委員会を開催し、その後職員へ向けての研修を行いました。

○ 年間行事

月	行事名	内 容	人 数
4～3	音楽会(年4回)	・季節ごとの音楽会を計画、四季折々の歌や音楽、楽器演奏を行う ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止	319
5	さつきウィーク	・利用者の作品展示、活動の様子の写真展示	86
7	七夕 縁日	・短冊の飾り付け ・縁日ならではの雰囲気を楽しむ (ひよっとこ、ヨーヨー釣り等) ※飲食は保護者了承のうえ実施	103
9	二十歳のお祝い会 オカリナコンサート	・二十歳を迎えられた利用者を利用者、職員で祝う ※二十歳を迎えられた利用者の保護者も参加 ・ボランティアによるオカリナコンサートを実施 ※保護者の参加あり	36
10	スポーツウィーク	一週間を通し、様々なスポーツを体感する(ゴルフ、ボッチャなど)	89
12	おたのしみウィーク、 もちつき	・今年一年を振り返りながら、出し物や楽器演奏を観て楽しむ ・昔ながらのもちつきを見て、餅に触れる ※保護者の参加あり	107
1	新春ウィーク、 初詣	・かるたやすごろくを行う ・一ッ葉稲荷神社へ外出	100
2	節分 二十歳のお祝い会	・豆まき ・二十歳を迎えられた利用者を利用者、職員で祝う。 ※二十歳を迎えられた利用者の保護者も参加	30
3	ひなまつり 調理活動	・お茶会、絵合わせカードや歌、絵本を楽しむ ・お菓子作り	82

【 地域生活支援部 】

【そうだんサポートセンター おおぞら】

【宮崎市そうだんサポートセンター すぴか】

重点目標・施策に対する実績

ア【地域の相談支援の中核的な役割】

基幹センターとして、障がい種別に関係なく、当事者、保護者、支援者等からの総合的な相談に応じました。

イ【専門性の高い（複雑困難な）事例への対応】

- (ア) 基幹相談支援センターとして、養育困難や生活困窮、虐待等の複雑困難な事例や高い専門性を必要とする事例への対応を行いました。
- (イ) 障がい児相談支援をより一層推進し、児童がすくすくと育つ環境が整うように関係機関、事業所及び行政との連携に努めました。

ウ【計画書作成担当事業所の紹介・案内】

利用者や市・関係事業所からの相談に応じ、サービス等利用計画書や障がい児支援利用計画書を作成する指定相談支援事業所の紹介・案内を行いました。

エ【他の指定相談支援事業所への助言】

- (ア) 宮崎市の相談支援体制の強化を図る取り組みとして、他の指定相談支援事業所に対して専門的な助言等を行いました。
- (イ) 他の指定相談支援事業所が抱える困難事例等に同行するなど、後方支援を行いました。

オ【研修の企画・開催】

宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターの役割である「地域の相談支援体制の強化」を図るため、指定相談支援事業所や各種サービス提供事業所を対象に研修を行い、地域の人材育成に努めました。

カ【療育の相談支援】

- (ア) 家庭や地域の施設を訪問し、障がい児（発達気になる子ども）やその家族に対する療育相談を行う巡回相談事業で、子育て支援センターの巡回相談での支援強化を図りました。また、障がい児（発達気になる子ども）が通所する施設を訪問し、職員に対する助言等を行いました。
- (イ) G S V（グループスーパービジョン）の手法を取り入れた施設支援を行うことで、保育所、幼稚園等の発達支援に係る技術向上を図りました。

キ【学齢期の複雑困難な相談に関する相談支援】

就学後の児童生徒の様々な支援ニーズに対し、家庭・教育・福祉の連携が円滑に進むよう情報提供や助言、関係機関へのつなぎなどのコーディネートを行いました。

ク【のびのびくらぶ（乳幼児期介護者サポート事業）の再構築】

実証ニーズを検証した結果、地域に児童発達支援事業所が増え、事業所を利用する中で保護者間の交流が図られるようになったため、今後は、相談支援の中で福祉サービス利用を進めていくことになりました。

ケ【宮崎市自立支援協議会との連携強化】

- (ア) 宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターと宮崎市自立支援協議会の連携を強化するため「子ども支援部会」「医療的ケア支援部会」の事務局を担うとともに、その他部会の会議にも積極的に参加し、障がい児者を取り巻く課題を共通認識するために、各部会の運営を支援しました。
- (イ) 宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターの業務を各部会に周知し、地域の障がい者等の支援体制を充実するため、関係団体等との協力体制の構築に努めました。

コ【関係機関等との連携強化】

- (ア) 各種事業を円滑に進めていくために、市町村福祉担当課、教育委員会、児童相談所、医療機関など、各関係機関及び事業所との連携強化を図りました。
- (イ) 「宮崎市民生委員児童委員協議会」、「中学校区特別支援教育連絡会」などに出席し、地域の教育、福祉と家庭の連携と相談支援体制の強化を図りました。
- (ウ) 宮崎県障がい者相談支援事業連絡協議会（MSR）が主催する会議や研修会等の運営に協力し、障がい児者の相談支援体制の強化に努めました。

サ【宮崎市総合発達支援センター診療部及び通所部との連携強化】

- (ア) 宮崎市、国富町及び綾町の地域支援体制の強化を目的に、診療部及び通所部との合同勉強会や会議（外部評価や地域づくりなど）を企画するなど、各部門との連携強化を図りました。
- (イ) 増加する子どもの発達に関する相談に対応するため、幅広い知識と専門スキルを持った診療部・通所部（児童発達支援センターすびか）による地域事業所の育成・指導のコーディネート業務等を行いました。
- (ウ) 発達障がい等の診断を受ける前の期間に障がい児やその家族の不安解消を図るため、診療部と連携し、早期相談事業を行いました。

シ【医療的ケア児等の相談支援体制の強化】

- (ア) 宮崎市等の医療的ケア児及びその家族を地域で支えられるよう、他の相談支援センターとの連携を図りながら、福祉や教育、医療にまたがる相談支援体制の構築に努め、他事業所の相談支援専門員への助言や情報提供を目的とした交流会及び研修会を企画開催しました。
- (イ) 医療的ケア児の支援をしている事業所や家族会と連携し、兄弟姉妹の交流会を企画開催しました。
- (ウ) 宮崎県医療的ケア児支援センターとの連携を強化し、医療機関から退院する際の早期相談支援体制の構築に努めました。

ス【保育所等訪問支援の実施】

地域の幼稚園、保育園、認定こども園等に通う発達に心配のある子どもが、集団生活の中で安全安心に過ごせるように環境設定の助言や対応のアドバイスを行い、保育や教育の成果を最大限に引き出せるよう訪問支援を行いました。

- 宮崎市障がい者基幹相談支援・虐待防止センターにおける相談支援、療育等支援、巡回支援等の実績 (年間件数)

項 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
障がい者相談支援事業		2,429	2,418	2,851
療育等 支援事業	訪問療育	25	11	6
	外来療育	115	138	24
	施設支援	6	10	33
巡回支援専門員整備事業		253	254	169
合 計		2,828	2,831	3,083

- サービス等利用計画書及び障がい児支援利用計画書の作成件数 (年間件数)

項 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
サービス 等利用 計画書	新規・更新・変更	97	81	57
	モニタリング	43	37	28
障がい児支援 利用計画書	新規・更新・変更	255	205	190
	モニタリング	118	101	87
合 計		513	424	362

- 乳幼児期介護者サポート事業「のびのびくらぶ」利用者(児)数 (年間延べ人数)

対 象	令和3年度	令和4年度	令和5年度
保護者	26	0	-
乳幼児	35	0	-
合 計	61	0	-

※令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

※令和5年度は、実施ニーズを検証し、未実施とした。

○ 保育所等訪問支援事業利用児数 (年間延べ人数)

対 象	令和3年度	令和4年度	令和5年度
乳幼児	0	16	23
その他児童	0	0	0
合 計	0	16	23

○ 障がい児支援利用計画書の作成件数 (宮崎市そうだんサポートセンターすびか) (年間件数)

項 目		令和3年度	令和4年 度	令和5年度
障がい児支援 利用計画書	新規・更新・変更	6	50	62
	モニタリング	2	39	54
合 計		8	89	116

※令和3年度は相談支援専門員が欠員のため4月～2月まで休止、3月より再開